町の地熱開発事業を学ぶ

子どもたちを対象に特別授業を開催

地熱資源について真剣に学ぶ生徒たち（中学生）

模型を使用した説明に児童たちも集中（小学生）

独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構（JOGMEC）（高原一郎理事長）主催の地熱特別授業が開催されました。この授業は2年前から実施されているもので、次世代を担う子どもたちに、町の事業として現在も調査を継続している地熱開発への認識を深めてもらうことを目的としています。

9月4日は、弟子屈中学校（小林一博校長）の2年生を対象に「弟子屈町の地熱資源について」をテーマに、スライドや模型を使用した説明が行われ、生徒たちは町の地熱資源について興味深い様子で学んでいました。

10月5日には、弟子屈小学校（佐藤義行校長）、和琴小学校（工藤博之校長）の6年生を対象に「地熱ってなに？地熱で電気ができるの？」と題した合同授業が開かれ、地熱発電に関する説明や発電実験が行われました。実験では、電球を点灯させるため手回し発電機を一生懸命に回す児童たちの姿が見られました。

今回の授業で、地域の恵みを生かした産業について考えるきっかけを得た子どもたちは、豊富な資源を有する本町について改めて理解を深めました。

町の話題 CT CloseUp Topics

新たな子育て支援の拠点誕生

「ひなたぼっこ」の落成式を挙行

落成を祝い出席者たちで記念撮影

新築移転した町子育て支援センター「ひなたぼっこ」（小林史和所長）の落成式が10月1日、同施設で行われました。

これまで桜丘3丁目に建物を構えていた同センターですが、利用者の利便性向上や多様化するニーズに応えるため、認定こども園まゆう（髙野龍彦園長）横に新築する形で移転し、同日よりオープンしました。建物内部にはキッズルームやプレイルーム、授乳室、相談室などが完備されたほか、こども園の保育室兼午睡室が設けられています。両施設が一体化したことで、同園の利用者が気軽にセンターへ足を運びやすくなり、新たな子育て支援の拠点としてこれまで以上の効果が期待されます。

落成式には、町関係者や工事業者、こども園関係者など21人のほか、親子5組10人が出席。徳永町長は「こども園との連携をさらに深め、寄り添い型のサポートを強化していく。」と話していました。式の最後には関係者たちによるテープカットが行われ、新たな施設の完成を祝いました。

和やかな雰囲気でのテープカット

新施設の外観

地域の交流に貢献

第14回ふれあい祭りを開催

町更生保護女性会によるスコップ三味線

ふれあい祭り実行委員会（藤原俊和実行委員長）主催の「第14回ふれあい祭り」が9月26日、町社会老人福祉センターで行われました。

このイベントは平成23年から、コロナ禍による中断を挟み毎年開催されているもので、障がいのある人もない人も、子どもからお年寄りまでみんなが福祉の垣根を越えて楽しむことを目的に、さまざまな催しが企画されています。

今年のふれあい祭りのコンセプトは「みんないっしょがイイっしょ！」。会場では、町更生保護女性会（金澤三恵子会長）による圧巻のスコップ三味線や、バトン、ダンス、紙芝居など多彩なステージ発表が行われたほか、パン・お菓子などの飲食物やハンドメイド作品の販売など、町内外からの出店も多数ありました。また、弟子屈高校（伊東文人校長）からは「てしかがもりあげ隊」のメンバーもスタッフとして参加し、地域との交流を楽しんでいました。

祭りには世代を問わず多くの方々が来場し、皆さんの笑顔が溢れる賑やかな1日となりました。

紙芝居を披露する藤原実行委員長

会場ではパンなど飲食物の販売も

町の話題 CT CloseUp Topics

37年間ありがとう

ノロッコ号ラストラン

感謝の気持ちを寄せ書きに

大勢に見送られながら最後の運行へ

平成元年6月より、JR釧網線の釧路－塘路間を運行している「くしろ湿原ノロッコ号」が、10月10日にラストランを迎えました。

「ノロノロと走るトロッコ列車」が由来のとおり、ゆっくりと大自然の景色を楽しめる観光列車として長年親しまれたくしろ湿原ノロッコ号。本町には「ノロッコ川湯温泉号」として川湯温泉駅まで延長運行され、多くの鉄道ファンや町民に愛されてきました。残念ながら、車両の老朽化により9日が最後の運行となりました。

この日、駅には全国から多くの鉄道ファンが集い、ノロッコ号を盛大に歓迎しました。ホームでは町や周辺地域の特産品販売のほか、記念品配布、寄せ書き、写真撮影などが行われ、来駅者たちは各人各様の思い出づくりを楽しみました。約40分間停車したノロッコ号は、別れを惜しむ人々に見送られながら線路を引き返して行き、37年の歴史に幕を下ろしました。

横断幕を掲げノロッコ号を歓迎